

実践『ペルソナ』通信 (No. 101)

「マスク」に関する調査

実践女子大学人間社会学部 実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学生を対象に、女子大学生の「マスク」についてアンケート調査を実施しました。

※実践「ペルソナ」研究会は、実践女子大学人間社会学部における「統計学科（担当：竹内光悦）」のゼミ生を中心に組織され、実践女子大学生が「自分たち自身」の消費活動、ライフスタイル等を研究する研究会です。

はじめに

新型コロナウイルスによりマスクが必須の生活になり、今までとマスクの在り方が変わりました。最近では、高機能マスクからデザイン性に優れたマスクまで、さまざまな商品が出てきました。そこで、本調査では女子大生のマスクに対する意識を調査しました。

総括

今回の調査を通して、現在はウイルス対策のためにマスクを利用していて、デザインは白かカラーマスクを使用している人がほとんどを占めているため、シンプルなマスクをつけている人が多い傾向があることが分かりました。

さらに、マスクをするメリットとして1番多くあげられたスッピン隠しや、デメリットとして2番目に多くあげられた化粧崩れがあることから、女性ならではのメリットとデメリットがあることが分かりました。

Topics

- (1) コロナ流行前のマスク着用目的は人それぞれ、流行後はみんなウイルス対策
- (2) 白マスクを使用する人が最も多く、重ねて使用している人はほぼいない
- (3) 女子大生はマスクを薬局で購入、値段は200円未満が6割超
- (4) マスクを予定に合わせて使い分ける人、使い分けない人は半々
- (5) マスクのメリットは「すっぴん隠し」、デメリットは「肌荒れ」
- (6) コロナ収束後、マスク着用止める人半数以上

調査担当者

実践『ペルソナ』研究会 門廣あみ・高橋玲奈・松本真結・村上菜穂

調査概要

- ・調査対象：女子大生
- ・調査方法：Google フォームによるインターネット調査

- ・調査期間：2021年6月5日（土）～6月16日（水）
- ・有効回答者数：290名

調査結果

(1) コロナ流行前のマスク着用目的は人それぞれ、流行後はみんなウイルス対策

「マスクをつける理由」について尋ねたところ、コロナ前はウイルス対策が8%（22人）と少なく、花粉症対策（71人）・風邪予防（73人）・風邪をひいたとき（69人）がそれぞれ全体の24%程度で大体等しく、この3つがマスクをつける理由であるということが分かります（図1）。一方で現在のコロナ禍におけるマスク着用の理由は「ウイルス対策」が98%（283人）と圧倒的な割合を占めていることが読み取れます（図2）。また、「みんなしているからする」という意見も上がり、同調性を意識する日本人らしい解答もありました。以上の2つから分かることは、コロナ前のマスク着用の理由は様々であり、また季節限定的な利用も見られましたが、現在は「ウイルス対策」の一強であり、マスクをつけない選択をする人は0%（0人）ということなのです。

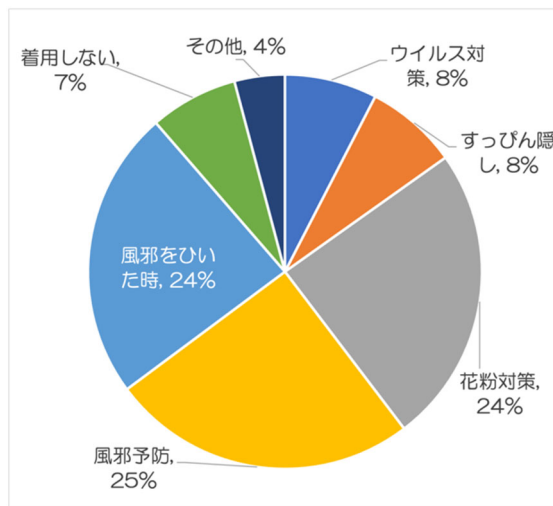


図1. コロナ流行前のマスク着用の1番の目的（N=290）

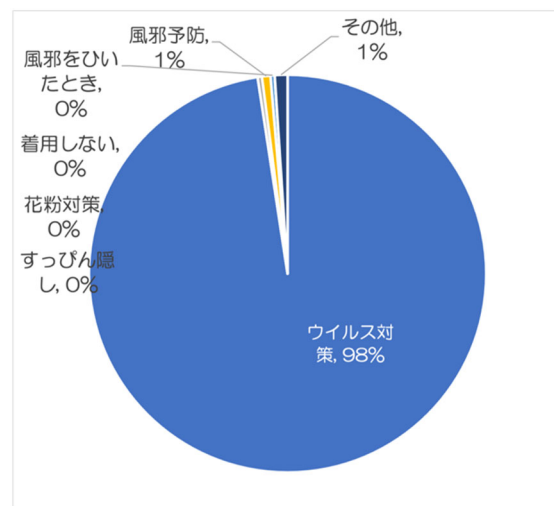


図2. コロナ流行後のマスク着用の1番の目的（N=290）

(2) 白マスクを利用する人が最も多く、重ねて使用している人はほぼいない

使用しているマスクのデザインを尋ねたところ、「白」と回答した方が82%（238人）と最も多い結果でした。次いで、「カラーマスク」18%（51人）、「柄」1人「レース」は0人と0%で、女子大生は白のシンプルなマスクを使用する傾向にあることが分かります（図3）。普段マスクの予備を持ち歩くか尋ねたところ、マスクの予備を持ち歩く人は、55.5%（161人）、マスクの予備を持ち歩かない人は44.5%（129人）となりました（図4）。また、マスクを何重にしてつけるか尋ねたところ、マスクを1枚で利用する人は、98.3%（285人）で非常に多く、2枚重ねて利用する人は1.7%（5人）、3枚以上は0%（0人）という結果になり、ほとんどの人がマスクを重ねずに1枚で使用していることが分かりました（図5）。

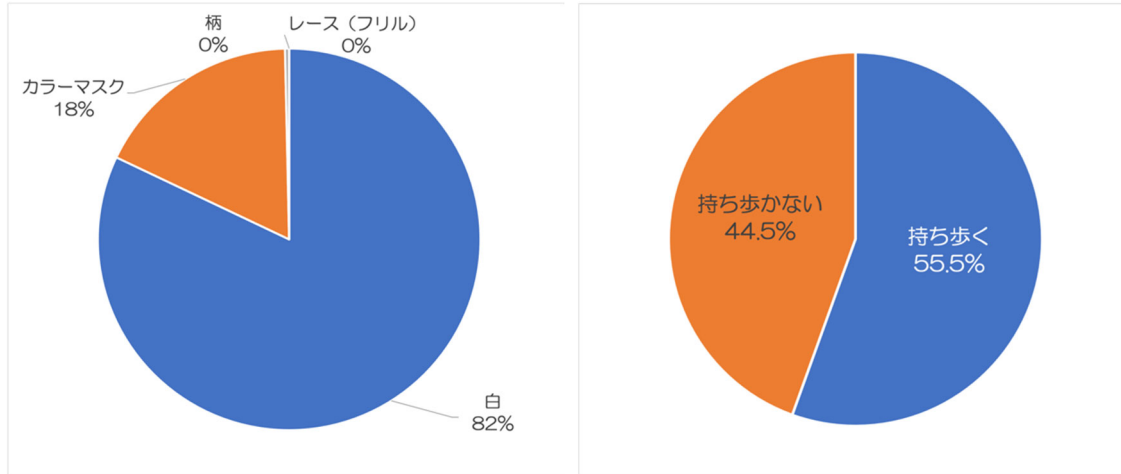


図3. 普段使用しているマスクのデザイン (N=290) 図4. マスクの予備を持ち歩いている人の割合 (N=290)

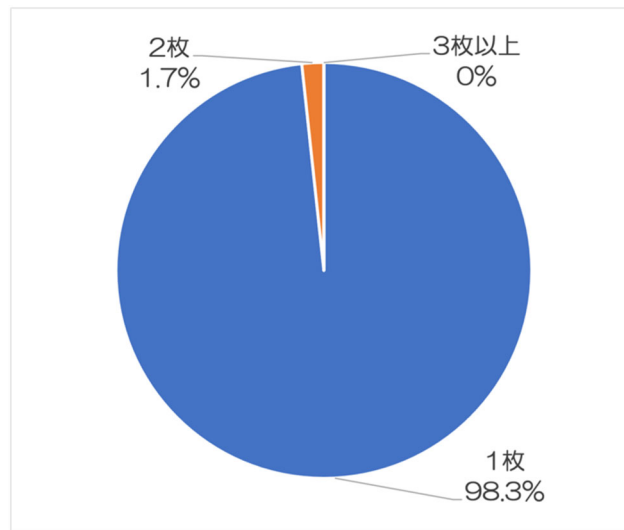


図5. マスクを重ねて使用している人の割合 (N=290)

(3)女子大生はマスクを薬局で購入、値段は200円未満が6割超

マスクをどこで購入しているか尋ねたところ、薬局が74% (216人) と最も多く、その他、スーパーマーケット (20人) やネット通販 (36人) などの声がそれぞれ全体の10%程を占めていることが分かりました (図6)。また、少数ですが、ファッションブランド2% (5人) や物販1% (3人)、コンビニ1% (3人) で購入する、と答えた方もいました。この点から、マスクは薬局で買えるような不織布の使い捨てマスクを利用している人が多いのではないかと考えられます。使用しているマスク1枚あたりの値段を尋ねたところ、「~200円未満」が63% (184人) と半数以上を占め、次いで「0円 (貰い物・自分では買わない)」18% (52人)、「201円以上~400円未満」16% (46人) という結果になりました (図7)。「401円以上~600円未満」2% (6人)、「601円~800円未満」1% (2人) であり、「801円以上」には該当者がいなかったことから、手頃なマスクを使用する傾向にあることが分かります。

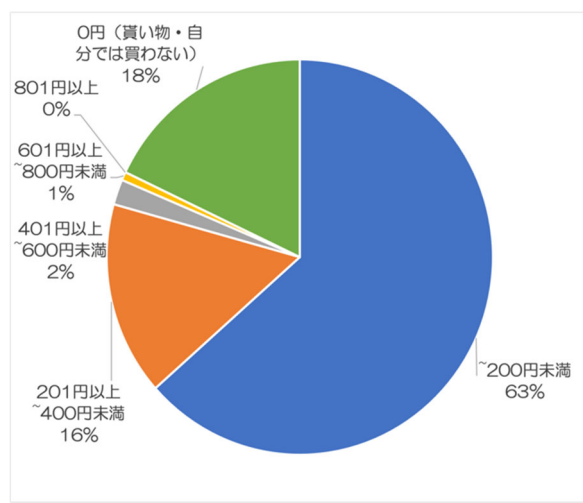
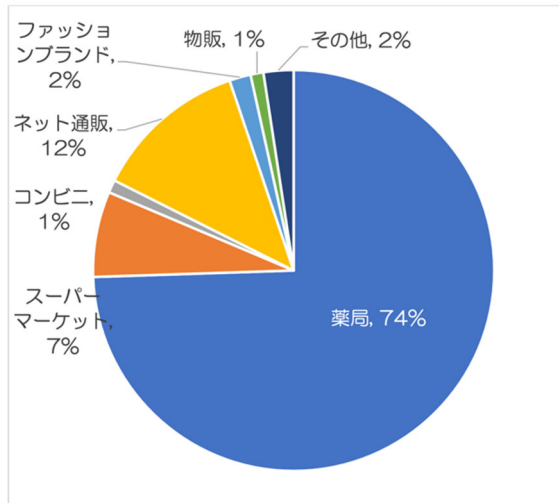


図6. 主なマスク購入場所 (N=290)

図7. マスク1枚あたりの値段 (N=290)

また、マスクを購入する際に重視するポイントを探ったところ、「着け心地」を「重視している」「やや重視している」と回答した方が合計で 86% (249 人) と最も多く、次に「機能性」81% (235 人)、「形」81% (233 人)、「素材」79% (229 人) でした (図 8)。一方で、「柄」は 46% (135 人) と重視している女子大生は少ないことが分かります。このことから、女子大生は「柄」でマスクを選ぶ傾向があまりなく、「付け心地」「機能性」「形」「素材」の4点を重視してマスクを購入していることが考えられます。

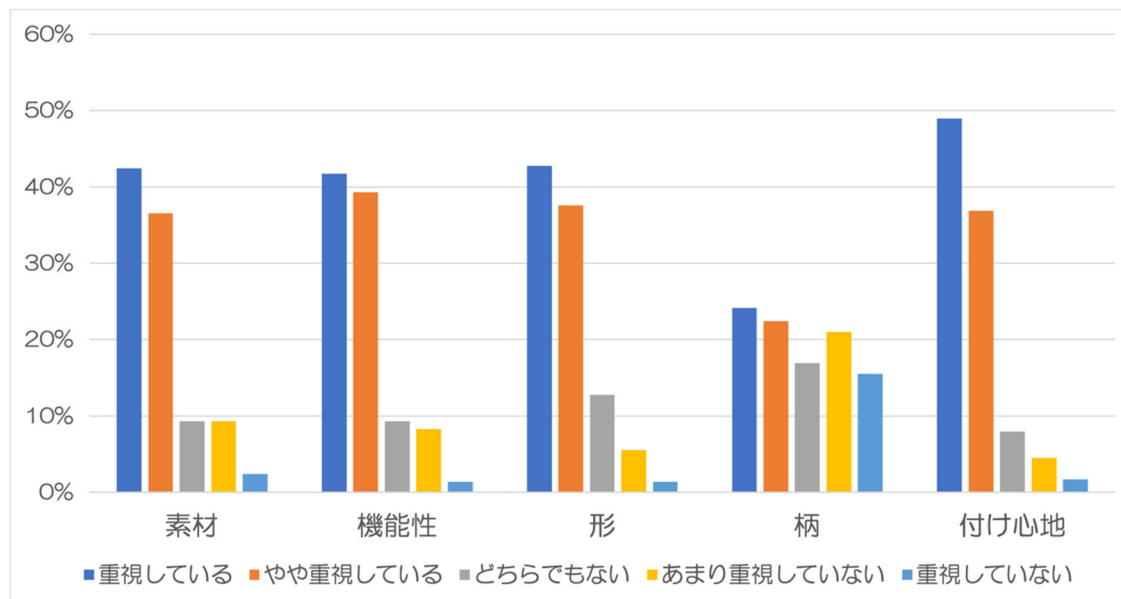


図8. マスクを購入する際に重視するポイント (N=290)

(4) マスクを予定に合わせて使い分ける人、使い分けない人は半々

その日の予定に合わせてマスクを使い分けるか尋ねたところ、マスクの使い分けをしていると答えた人は、47.2% (137 人)、使い分けをしないと答えた人は 52.8% (153 人) となりました (図 9)。使い分けると答えた方に、どのような状況でマスクを使い分けるか尋ねたところ、「外出先」や「予定」のウイルス対策のために使い分けをしている人は 97 人、「ファッション」「気温」「気分」によって使い分けしている人は 10 人でした (図 10)。

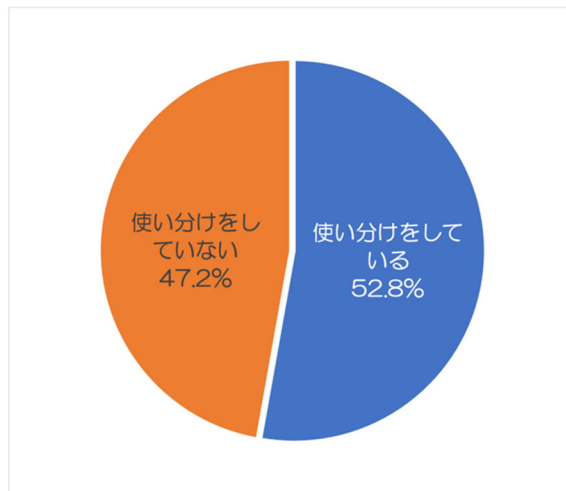


図9. マスクを予定に合わせて使い分ける人の割合 (N=290)

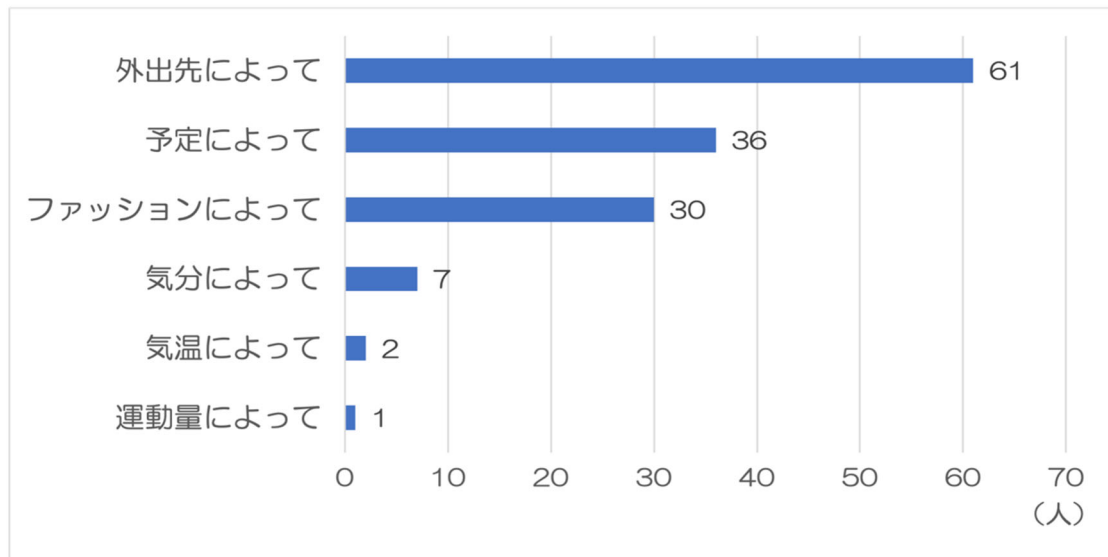


図10. 予定に合わせてマスクを使い分ける人の使い分ける状況 (N=137)

(5) マスクのメリットは「すっぴん隠し」、デメリットは「肌荒れ」

マスクを着用するようになってメリットだと感じたことを尋ねたところ、すっぴん隠しになると答えた人は「そう思う」が59% (171人)、「ややそう思う」が28% (80人)で全体の8割以上を占めており、すっぴん隠しをメリットだと感じている人が最も多いことが分かりました (図11)。小顔効果になると考えている人は、「ややそう思う」が23% (84人)で最も多かったです。話題のきっかけになるは「あまりそう思わない」が44% (129人)で最も多く、「そう思わない」の38% (109人)も合わせると8割以上が話題のきっかけにはならないと感じていることが分かりました。冬の防寒対策になるは「そう思う」「ややそう思う」が合計で77% (223人)であり、7割以上の人そう感じていることが分かりました。

マスクを着用することになってデメリットだと感じたことを尋ねたところ、肌荒れが「そう思う」が68%（196人）で最も多く、次いで「ややそう思う」が16%（45人）でした（図12）。つまり、マスクを着用にするにあたって肌荒れのデメリットは大きいことが分かりました。また、メガネの曇りは「そう思う」が36%（103人）で、「ややそう思う」が17%（48人）でそう思わない人と半数くらいでした。息苦しさは「そう思う」が63%（183人）で「ややそう思う」が25%（72人）で合わせると9割弱の人がデメリットに感じていることが分かりました。化粧崩れは、「そう思う」が59%（170人）で、「ややそう思う」が22%（63人）で合わせると8割弱の人がデメリットに感じていることが分かりました。サイズ感は、「ややそう思う」が31%（90人）で最も多く、「そう思わない」が6%（17人）で最も少なかったです。

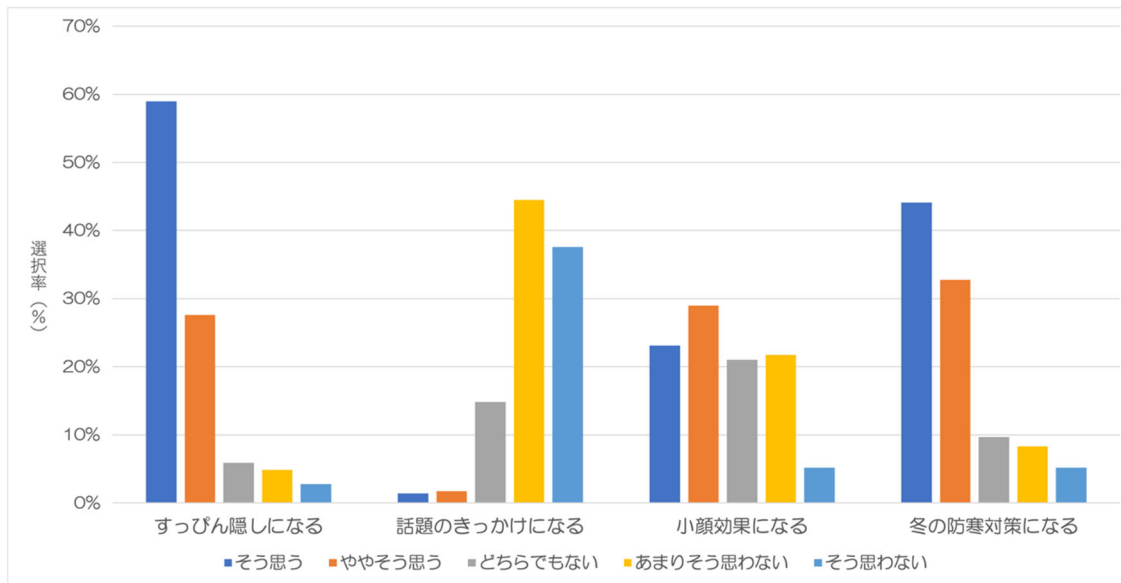


図11. 女子大生が感じるマスクのメリット (N=290)

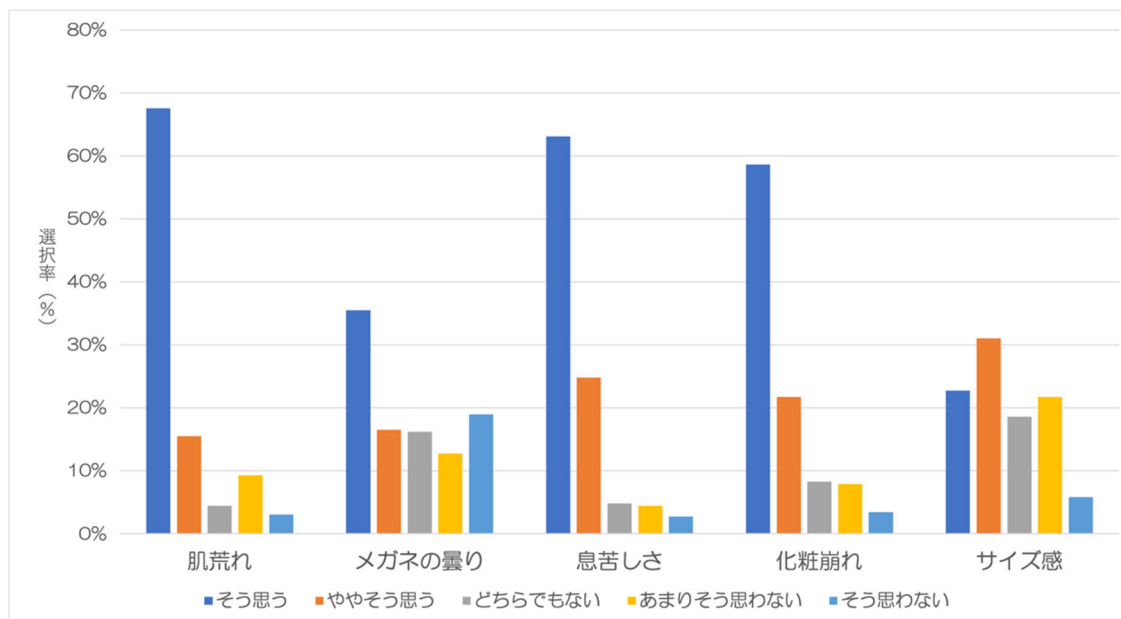


図12. 女子大生が感じるマスクのデメリット (N=290)

(6) コロナ収束後、マスク着用を止める人半数以上

コロナが収束したらマスクの着用をやめるか尋ねたところ、「着用をやめる」「おそらく着用をやめる」と回答した方が合計で58.7%と半数以上を占め最も多く、次いで「おそらく着用をやめない」21.4%、「分からない」11%、「着用をやめない」8.6%という結果になりました(図13)。新型コロナウイルスが収束したら、「マスクの着用をやめる」、「おそらく着用をやめる」と答えた人は、マスクは息苦しさを感ずる、またメイクが崩れるから、夏は暑いからといった理由があげられました。こうした意見は、マスクを着用するうえでのデメリットが大きく関与していると考えられます。

また、「マスクの着用をやめない」「おそらく着用をやめない」と答えた人は、花粉症だから、習慣化したから、コロナの変異株などが怖いから、すっぴん隠しになるからという理由があげられました。こうした意見は、コロナの脅威と、コロナによるマスクの重要性によるものだと考えられます。

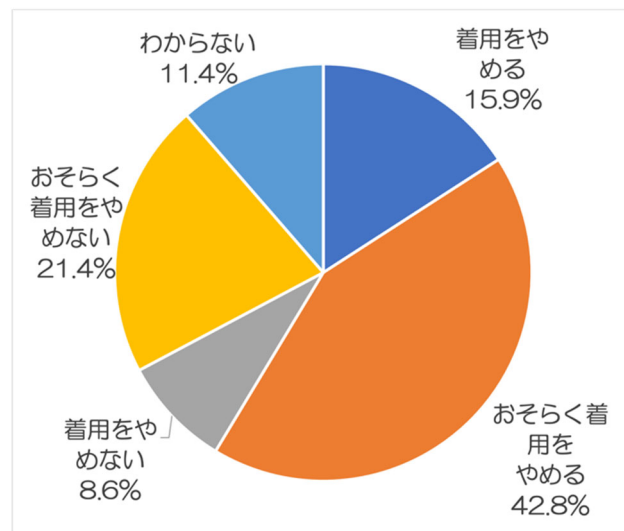


図13. コロナ収束後のマスク着用について (N=290)

考察

今回の調査から、女子大生は新型コロナウイルス流行前後でマスクをつける目的が違うことが分かりました。流行以前は、花粉対策や風邪を引いた時につける傾向がありましたが、現在はほとんどの女子大生がウイルス対策でマスクをつけていることが分かりました。

購入する場所は、薬局・スーパーマーケット・ネット通販が主にあげられていて、ファッションブランドや物販が少ない傾向にあり、使用しているマスク 1 枚あたりの値段では「～200 円未満」が多かったことから、女子大生はコスパ重視でマスクを購入しているのではないかと考えられます。マスクデザインについては、白いマスクを使っている人が 8 割を占めており、ウイルス対策として最も有効的な不織布マスクを使っている人が多いことが考えられます。また、次にカラーマスクを使っている人が多かったことから、カラーマスクは柄やレースがついているマスクよりもシンプルで洋服に合わせやすいため、女子大生に好まれる傾向があることが分かります。

購入する際に重視するポイントは、デザインよりも、値段の安さ・付け心地・素材・機能性・形を重視していることが分かり、これは「白いマスク（不織布マスク）」を使用している人が多い、「～200 円未満」のマスクを使用している人が多いという結果に繋がっています。購入場所に関しては、実家暮らしの女子大生が多いのにも関わらず自分のお金でマスクを買う人が約 6 割を占めているため、自分好みのマスクを購入している、もしくは、出先でマスクが切れてしまった際や予備のマスクを忘れてしまった際に購入することが多いのではないかと考えられます。

マスクの使い分けは、使い分けをしている人が使い分けしていない人よりも 5.6 ポイント差で少し多いですが、ほぼ同数くらいの結果になりました。使い分けると答えた中で最も多い「外出先によって」と 2 番目に多い「予定によって」は、ウイルス感染を懸念している方が多いと考えられ、その他の「ファッションによって」「気分によって」「気温によって」は自分の気持ちや見た目を重視していることが分かります。

さらに、マスクをするメリットとして 1 番多くあげられたのがすっぴん隠し、デメリットは「肌荒れ」、2 番目に多くあげられたのが、化粧崩れであることから、女性ならではの問題点がメリットとデメリットにあることが分かりました。「肌荒れ」「化粧崩れ」は、女子大生がマスクを購入する際に重視するポイントとしてあげられた「付け心地」「素材」という結果に繋がっていると考えられます。

以上の結果から、女子大生のニーズを満たすマスクは手頃な値段で購入できること、抗ウイルスマスクであること、そして肌荒れや化粧崩れのしにくい素材や付け心地であるという 3 点であることが分かりました。